

間伐材原料に木粉樹脂トレー開発

宮坂木材産業

ジャパンホームショーに出展予定

各種製材業及びガーデニング事業を主力とする宮坂木材産業（和歌山市、宮坂雅博社長）が足掛け5年かけて商品化に取り組んできた木粉と廃プラ樹脂混合ペレットを射出成型した木粉樹脂製品がようやく日の目を見ようとしている。7月から第1弾としてトレーの本格販売を開始した。

中小企業が新たな商品開発を行うのは容易でないが、一貫して商品開発に携わってきた宮坂雄子部長は、「既存事業だけではシリ貧、思い切った違う職種とコラボレートすることで全く発想の違う商品開発を目指した。

ただ、木材こそが私たちの原点であり、木材を有効活用するという考え方を開発コンセプトに取り入れ、未利用木材の原料化に至っているのは、プラスチック

を木材に置き換えること。今後、和歌山県産を前面に出した展開も開始する」と語る。

同社の木粉樹脂トレーはさきごろ、和歌山県の助成を受けて「和歌山県試し買い支援制度」の下、農業大学校学生寮食堂、県公営協議事務所競輪場宿舍、県立学校課特別支援教授室に納められた。その一方、自らも本格的な販売を開始、様々な展示会などに出展し商品特性や優位性を解いている。11月のジャパ

ンホームショーにも出展予定だ。

同社の木粉樹脂トレーとは何か。主に間伐材などを原料とし、これを粉状にし、廃プラスチックと混合してペレット状に加工、それを射出成型装置で加工するもの。押し出し成

型による板状製品はあっても、トレーなどの製品を製造するのに適した射出成型方式による木粉樹脂成型品は国内になく、まずそうした化成品加工メーカーを探しから入った。

「きれいな形ができない、表面にガスが出て見た目が汚い、樹脂成型機械の洗浄が大変など本当に手間がかかり困難の連続だった」（同部長）。やっと巡り合ったのが、現在も提携しているサンキョー化成（和歌山県）だった。

夫を重ねれば必ずできると。今までもそうしてものづくりをしてきたから、と言われ日本メーカーのプライドを感じた」と振り返る。

製品化後も木粉率に信憑性への疑問が指摘された。品質表示などで偽装事件が相次いだ時期でもあり、「木粉率50%ならば100個作れば100個とも50%の木粉率を維持できるのか、県の工業試験場で試験してもらい木粉率に誤りがないことを証明してもらった」。

設で木粉率55%の「ウッドトレイ55」を試験的に使用してもらえようになった。洗浄機

で高温洗浄し熱風で乾かすや変形する恐れもあり、木粉率を引き下げた「ウッドトレイ39」も開発した。両製品ともに木づかい運動の3・9グリーンスタイルマークを取得している。



宮坂雄子部長

難しくても工

つけ、前記した県の施


星 株式会社
 総合住宅資材センター
 045(775)1331

今秋以降、県森連の木粉製造設備を通じ、和歌山県産の木粉供給が安定供給される見通しだ。これまでは杉だけであったが、松も始める。

「森林を整備し健全化するには、まず間伐材の有効活用が重要になる。木粉という用途が少しでもこうしたことに貢献できればと思う」。